東北ブナ紀行　最終回に寄せて

奥田　博

『東北ブナ紀行』がスタートしたのは 1999 年 12 月発行の会報でした。以来 23 年間、私が出会った山で自生するブナの森やブナの木を毎回２山紹介し、前回で 134 山に達しました。途中、原発事故で「大震災が教えてくれたもの」と題して自分が線量計を下げて、原発に近い山々を歩いたレポを交えて、数年間「ブナ紀行」は中断しました。黙っていられない想いを書きましたが、会報の発行がはばかれる様な出来事・事態でした。

高山のスキー場開発がストップされ、さらに森林生態系保護地域に、高山がゾーニングされたタイミングで解散しても良かった「高山の原生林を守る会」。しかし、このタイミングで開発を止める自然保護団体から、吾妻連峰・高山周辺の観察会を中心に軸足を大きく変えました。観察会は知的欲求を満たす面白さがありますが、そこには指導者が必要です。そして一緒に悩み喜びを共有できる仲間の存在も大きい。そんな環境が「高山の原生林を守る会」には揃っていました。良き指導者と仲間、この奇跡的な巡り合わせに感謝です。

さてこの「東北ブナ紀行」、青森から南下して東北５県を終え、福島県に入ることになる。福島県はブナの伐採地やブナの森がスキー場にとって代わった場所も多いが、ブナの森も多く残る。地元の県であり、多くのブナの山々が点在しているので皆さまでブナを楽しんで頂きたい。長い間のご愛読、ありがとうございました。

世の中にはブナ好きが多くいます。広島県在住の坪田和人さんは「ブナの山旅」という本で、北海道から九州までブナの森を紹介しています。彼は只見町のブナと関りを持ち続けていました。「ブナ百名山」と名付けてブナを探す登山をアップしている方もおります。

国界（只見町と金山町）のブナと呼ばれた、かつての大ブナ

私もブナには良い思い出ばかりです。ブナを探しに南ドイツやオーストラリア・タスマニアやニュージーランドを歩きましたが、日本のブナが一番のように思えます。

只見町はブナで町興ししている様子で「只見ブナセンター」を作ったことからもうかがえます。「癒しの森」と呼ばれるブナの散策路はブナの森を味わえる。そこに立派な「国界の大ブナ」と呼ばれる大木があった。スッキリとし真っ直ぐ伸びるブナでしたが、それが倒れてしまい、その往生した姿・倒木が見られる。全身コケやキノコや落葉に覆われ、次第に容積が少なくなっている様子が分かる。

倒木となって 10 年以上を経過して容積は次第に小さくなっているのが分かる。こうしてやがて土に還る。

朝ドラで一躍有名になった牧野富太郎。多くの植物を発見した偉業は永遠に不滅です。彼の遺した言葉も素晴らしい。

植物は面白い
一つとして同じものは無い
人も植物も懸命に生きている
あらゆる命には限りがある
出会いそのものが奇蹟
いとおしくて仕方がない